



沢田 秀穂

最近タイ鉱産資源局（経済情報部）から1970年度鉱産統計がえられたので これに開発状況など少しく加えてお送りする。 読者諸氏の何らかのお役にたてば幸いである。 なおこの経済情報部はプリンスの称号を有する PIRIYADIS DISKUL 氏を長とし 各種統計類をタイムリーにだしてくれる他 Mining Gazette という月刊誌（おもにタイ文）をだして いて これは地質ニュースに似た性格のものである。 その最近号は鉱産統計を英文で記したものを三か月前の分について速報している。 この月刊誌についてはまた別の機会にご紹介したい。

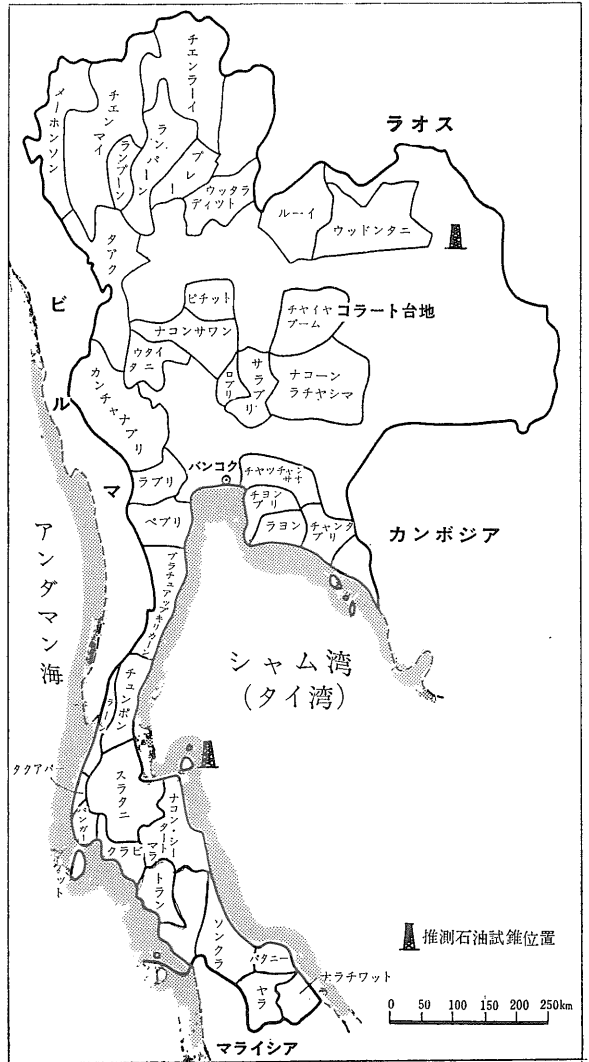
タイの鉱産業は南部の錫の採掘から始り 長い間ほとんど錫一本やりの形であったが ここ数年政府当局の鉱産業についての多鉱種化 高付加価値化の方針が漸次実を結びつつある。 たとえば 錫を精鉱として輸出することなく地金として海外にだしたり また最近もっともめざましい発展を示している螢石の開発・輸出はその例

である。 後者の螢石については 日本の各社の努力・貢献は少なくなく タイ国の輸出をふやしてその輸出入の不均衡を少なくするという点から日本側が多くの努力と貢献とをなしたという目でみると 農産物のトウモロ

表1：タイ国鉱産額 —1970年(100万パーツ; 20パーツ=約 1US\$)

鉱種	生産	輸出	国内消費
1: 錫 精 鉱	1,626.7	—	—
2: 螢 石 地 金	1,632.5	1,618.5	4.5
3: タングステン 精 鉱	204.9	219.2	—
4: アンチモン 鉱石・地金	144.3	163.2	—
5: 石 膏 鉱 石	131.0	111.5	7.5
6: 褐 炭	32.6	9.0	17.9
7: マンガン 鉱 石	32.2	—	29.8
8: 泥 灰 岩	16.7	3.5	3.5
9: 重 晶 石	13.7	—	15.2
10: 鉛 鉱 石	7.9	1.3	—
11: 珪 砂	7.2	7.5	—
12: 鉄 鉱 石	4.2	—	4.2
13: コルンブ石・タンタル石	3.6	0.6	1.1
14: カオリン	2.6	0.8	—
15: ジルコン	1.8	—	0.5
15: ジルコン	1.0	3.0	—
計(生産は錫精鉱を除く)	2,236.2	2,138.1	84.2

資料：タイ鉱産資源局 1971



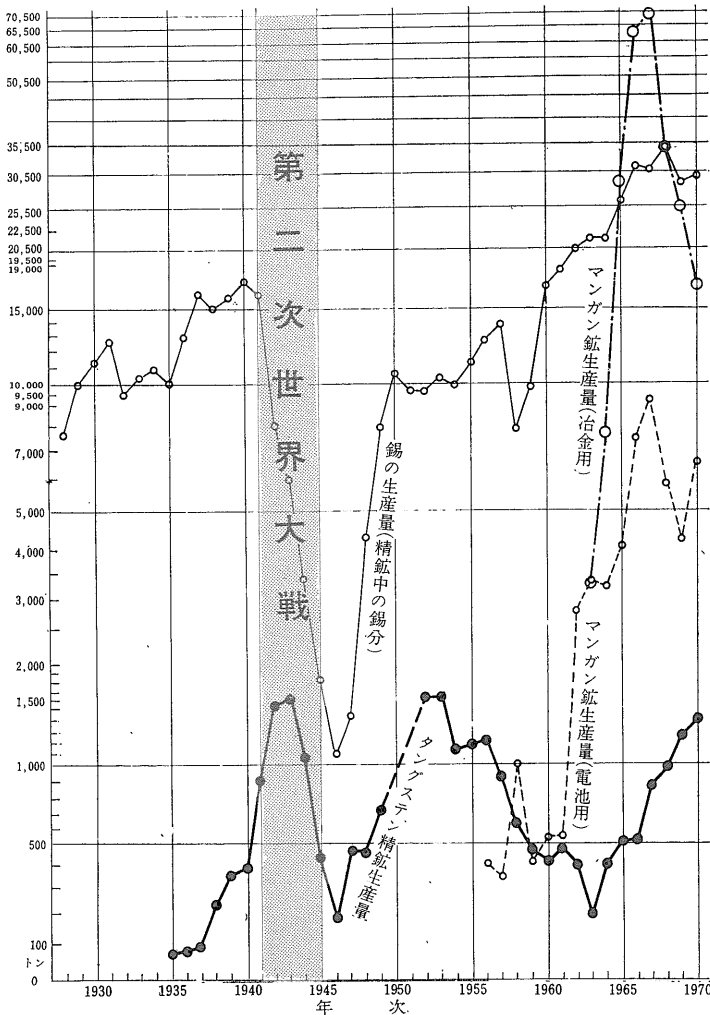
第1図. タイ国鉱産関係地方名図



表3：螢石

年次	生 産							計		輸 出		
	北 部				中 部			南 部	ト ン	百 万 バ ー ツ	ト ン	百 万 バ ー ツ
	ランブー ン県	ラムバー ン県	チェンマ イ県	メーホン ソン県	カンチャ ナブリ県	ラブリ県	ペブリ県	スラタニ 県				
1960	—	—	1,800	—	—	1,660	—	—	3,460	1.3	1,024	0.4
1961	—	—	3,675	—	—	1,080	—	—	4,755	1.9	5,023	2.0
1962	5,470	—	2,350	—	—	2,890	—	—	10,710	4.3	6,775	2.7
1963	28,040	—	890	—	—	300	—	—	29,230	11.7	14,790	5.9
1964	62,003	—	35	—	—	1,500	—	—	63,538	25.4	38,302	15.3
1965	48,769	—	160	—	—	—	2,900	—	51,829	20.7	48,663	19.5
1966	46,977	—	820	—	—	—	230	—	48,027	20.2	72,280	30.4
1967	117,509	1,420	4,523	—	—	—	9,700	—	133,152	55.9	129,201	54.3
1968	194,633	7,280	23,247	—	—	7,250	11,490	1,207	245,107	102.9	188,767	79.3
1969	212,789	6,800	19,666	13,120	—	16,760	29,000	175	298,310	157.7	260,157	137.5
1970	204,906	16,645	29,733	17,105	3,700	14,286	31,852	—	318,227	204.9	340,599	219.2
1971(1—4月)									174,060	145.8		

資料：タイ鉱産資源局 1971



第3図 タイ国鉱産物生産量(1) [1971年8月タイ国鉱産資源局資料より沢田作成]

から20万トンの螢石を入れるべく交渉中とのことである。また同紙によれば 濠州の一家が本年(1971)末頃螢石1万トンを試験的に輸入すべく交渉中であり また西独は船をチャーターして一航海8,000から1万トンの螢石を入れるべく交渉中で 何れの場合も冶金用のものという。タイ国の褐炭は専ら国内向けであるが これも前年に比べかなりの増産をみており 南部のクラビ県にある火力発電所の需要増がその原因である。一方減産をみたものに鉄鉱と鉛鉱(前年比28.3%の減)があるが 鉄鉱の場合は前年に比べて著しい下落がみられ これは南タイのナコンシータマラート県の鉄山が1970年初め終山したためである。

さてタイ政府は現在のところ 鉱産業そのものについては 北部タイの小油田からの石油と 南北の褐炭その他一二の場合を除いては 直接自ら手を下してはいないが 地質調査・探鉱・採鉱などについては 色々と民間の援助を試みているし また近年とみに発展のあとの著しい電力・道路などいわゆるインフラストラクチャーが これらの鉱産業の各段階においてその発展

表4：タングステン精鉱 (単位トン)

	1969年	1970年	1971年 (1-4月)
生産：南部	467	590	
中部 (カンチャナブリ県)	463	480	
北部 (タアク県以北)	310	308	
計	1,240	1,378	1,411
100万パーツ	87.4	144.3	121.2
輸出：輸出先：マレーシア	404	647	
オランダ	42	152	
西独	300	276	
イタリア	—	8	
ベルギー	—	2	
英国	290	338	
ポーランド	25	—	
スウェーデン	—	113	
計	1,061	1,536	
100万パーツ	74.2	163.2	

資料：タイ鉱産資源局 1971

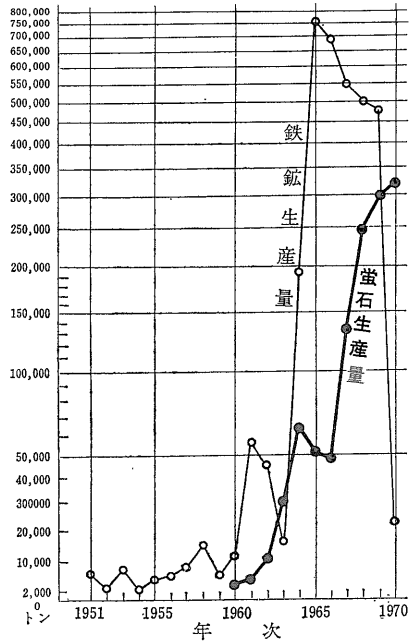
表5：アンチモン (アンチモニー) (単位トン)

生産：鉱石：南部	12	73		
中部 (ラブリ県 カン チャナブリ県)	53	775		
北部 (タアク県以北)	1,275	4,386		
南南部 (チャンタブリ県)	220	311		
計	1,560	5,545	2,190	
100万パーツ			13.9	
地金：南部 (スラタニ県)	246	155	38	
計	246	155	38	
100万パーツ			0.7	
価格：合計	100万パーツ	10.7	131.0	14.6
輸出：鉱石：輸出先：インド	—	25		
日本	209	2,325		
西独	590	446		
オランダ	21	250		
ベルギー	196	1,282		
イタリア	235	49		
米国	—	81		
計	1,251	4,458		
地金：輸出先：南 鮮	60	—		
オランダ	—	98		
米国	115	10		
計	175	108		
価格：合計	100万パーツ	8.4	111.5	
国内消費：地金：	84	114		
100万パーツ	0.8	7.5		

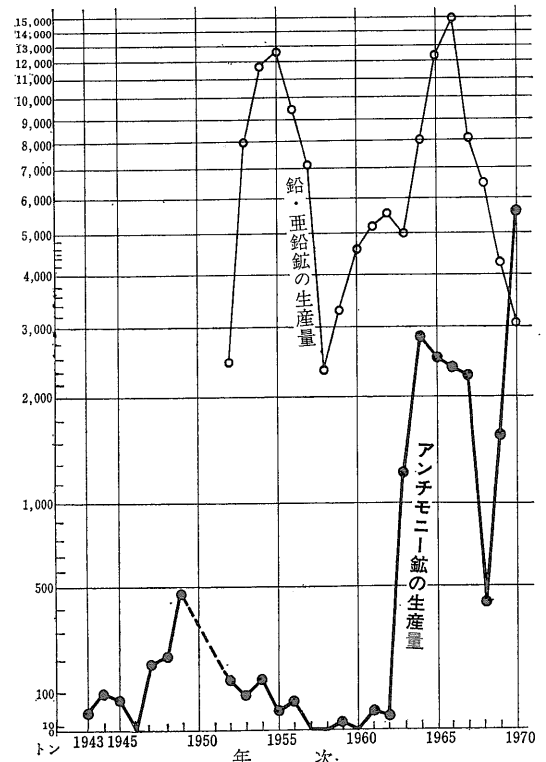
資料：タイ鉱産資源局 1971

に大いに貢献していることは疑いをいれない。

鉱業法も1971年6月石油鉱業法がはじめて実施されるに及んで一応各法とも備わった形である。しかし元来が自由の民であるタイの人々にとって全く異質的な新



第4図 タイ国鉱産物生産量(2)[1971年8月タイ国鉱産資源局資料より 沢田作成]



第5図 タイ国鉱産物生産量(3)[1971年8月タイ国鉱産資源局資料より 沢田作成]

表6：石 膏

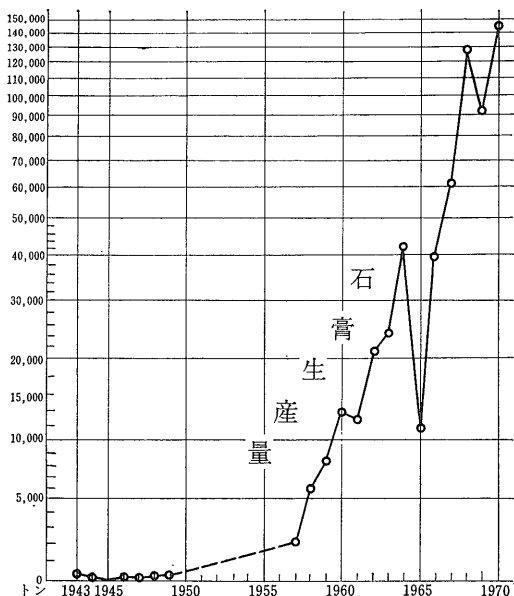
年 次	生 産					輸 出				国 内 消 費		
	合 計		地 方 別 (トン)			マレーシヤ	日 本	豪 州	計		トン	価 格 百 万 パ ー ツ
	ト ン	価 格 百 万 部 ー ツ	北 部		南 部	む け ト ン	む け ト ン	ト ン	百 万 部 ー ツ			
			ピチット 県	ナコンサ ワン県	スラタニ 県							
1943	351											
1944	133											
1945	—											
1946	86											
1947	70											
1948	200											
1949	153											
1950—1955	生産未詳											
1956	埋蔵量1,000万トンの新鉱床 Pichit 県にみつかり1957年採掘開始											
1957	2,100											
1958	5,700											
1959	8,000											
1960	13,000	4.9	13,000	—	—	—	—	—		—	—	
1961	12,040	4.5	12,040	—	—	—	—	—		856	0.3	
1962	21,000	7.4	21,000	—	—	—	—	—		16,425	5.7	
1963	23,890	8.4	23,890	—	—	—	—	—		24,570	8.6	
1964	41,900	14.7	41,900	—	—	—	—	—		—	—	
1965	11,240	3.9	11,240	—	—	—	—	—		33,199	11.6	
1966	39,629	13.9	32,140	4,500	2,989	467	—	—	467	0.2	26,545	9.3
1967	61,696	21.6	1,900	39,000	20,796	14,888	—	—	14,888	5.2	64,652	22.6
1968	128,094	44.8	17,500	76,257	34,337	26,500	—	—	26,500	9.3	71,278	24.9
1969	92,033	30.7	16,000	30,059	45,974	29,124	4,100	—	33,224	11.0	92,912	30.1
1970	144,250	32.6	33,836	54,489	55,925	38,375	1,470	15	39,860	9.0	79,010	17.9
1971	47,693	10.8										

資料：1971年は（1—4月）

1943—1949：USGS Bull 984, 1951（に引用あるもの）

1957—1959：Mining Development in Asia and the Far East, 1957—1960, U.N.E.C.A.F.E.

1960—1971：タイ鉱産資源局 1971



第6図 タイ国鉱産物生産量(4)(1971年8月タイ国鉱産資源局資料より 沢田作成)

しいものである こうした法規が 自分たちのために自分たちがきめたという理解のもとに 本当に身についたものになるには さらにさらに年をかさねなければなるまい。 事実 南・北各地で いわゆる“不法”の採鉱の行なわれている例はあげるにいとまなく 行政官もまた必ずしも 今すぐこれら法規をそのまま厳格に実施しようという姿勢の人々ばかりではないようで どこかの国のゴールドラッシュ時代のような 採掘現場での派手な出入りも度々新聞紙上をにぎわしている。

さて前記石油鉱業法の公布にともないかねてこれをまちあぐんでいた石油会社によって シャム湾(タイ湾ともよばれる)の石油探査のボーリングが早速実施されるに至った。 71年8月現在 一社が約3,000mほって未だ新期堆積物(新生層に中生層を伴うものか—筆者には未詳)を貫きおわらず 採掘やぐらの関係で一時休止と報ぜられている。

またバンコク付近の平原部に実施された数本の陸上の

表7：褐 炭

年 次	生 産				国 内 消 費		
	北 部 (トン)		南 部 (トン)	計		ト ン	価 格 百 万 パ ー ツ
	Lampang 県	Lamphun 県	Krabi 県	ト ン	価 格 百 万 パ ー ツ		
1954	Mae Mohにて 生産開始						
1955							
1956							
1957	100,000+			100,000+			
1958	103,010			103,010			
1959	109,538			109,538			
1960	107,783	—	—	107,783	8.6	109,248	8.7
1961	108,396	—	—	108,396	8.7	106,322	8.5
1962	135,224	—	—	135,224	10.8	133,615	10.7
1963	137,074	—	—	137,074	11.0	135,652	10.9
1964	90,267	—	13,367	103,634	8.3	89,366	7.1
1965	47,236	—	77,728	124,964	10.0	138,331	11.1
1966	58,603	—	112,530	171,133	13.7	171,132	13.7
1967	139,164	—	196,125	335,294	26.8	313,451	25.1
1968	94,423	—	210,913	305,336	24.4	301,548	24.1
1969	124,866	—	222,945	347,811	27.8	335,975	26.9
1970	147,047	6,827	245,998	399,872	32.2	372,717	29.8
1971(1—4月)				144,512	11.6		

資料：1957—1959：Mining Development in Asia and the Far East 1957—1959, U.N.E.C.A.F.E.  
1960—1971：タイ鉱産資源局 1971

表8：マ ン ガ ン 鉱

区 分	1969年	1970年	1971年(1—4月)
生産：電池用：東部（ルーイ県）	—トン	750トン	
北部（ラムブーン県 ランバン県）	4,226 "	5,724 "	
計	4,226 "	6,474 "	1,459トン 2.2百万パーツ
冶金用：南部（ナラチワット県 ヤラ県）	14,395 "	9,560 "	
中部（ラヨン県）	5,200 "	3,300 "	
北部（ラムブーン県 チェンマイ県）	6,000 "	4,531 "	
計	25,595 "	17,391 "	2,960トン 1.2百万パーツ
化学用：北部（ラムブーン県）	115 "	—	—
計	115 "	—	—
合 計	百万パーツ 17.6	16.7	3.4
輸出：電池用：輸出先：マレーシア	5 "	—	
香 港	1,385 "	360 "	
台 湾	120 "	—	
日 本	935 "	—	
南 鮮	75 "	—	
濠 州	2 "	—	
計	2,522 "	360 "	
冶金用：輸出先：台 湾	6,000 "	3,200 "	
日 本	11,300 "	4,300 "	
計	17,300 "	7,500 "	
合 計	百万パーツ 11.3	3.5	
国内消費：電池用	ト ン 1,567	2,359	
	百万パーツ 2.5	3.5	

資料：タイ鉱産資源局 1971

表9：泥 灰 岩

年 次	生 産		国 内 消 費	
	トン	百万バート	トン	百万バート
1958	467,709			
1959	459,499			
1960	434,475	9.1	1960年—1968年の間は	
1961	718,467	15.1	生産と同額	
1962	936,191	19.7		
1963	965,840	20.3		
1964	1,058,365	22.2		
1965	1,105,152	23.2		
1966	1,161,716	25.6		
1967	1,213,624	26.7		
1968	1,624,201	35.7		
1969	1,533,989	38.7	1,416,701	31.2
1970	622,793	13.7	693,127	15.2
1971(1—4月)	177,659	3.9		

資料：1958—1959：Mining Development of Asia and the Far East  
1959, U.N.E.C.A.F.E.  
1960—1971：タイ鉱産資源局 1971

試錐は 前に行なわれた物理探査の結果を確認した形で何れも 数百mほって新しい堆積物（おそらく第四紀層一部に第三紀後期のものを含むか）をつらぬき 基盤の古生層や花崗岩についたが 天然ガス・石油とも筆者の予期のとおりに発見されていない。 さらにUnion Oil 社も1963年頃から地表調査を行っていた北東タイのコーラート台地で待望の試掘を開始 1971年12月20日現在 深度約1,600 mに達したが 未だコーラート層群をぬいていない。 このコーラート台地は数百mの下まで（人によっては 1,000m 位下までともいう）含塩層があり世界有数の岩塩の埋蔵量が考えられているが（表21）さらに1970年度の米国地質調査所の調査の結果 カリの鉱床の存在する可能性も高いと伝えられている。 ところでさらにこの含塩層の下すなわち一般に陸成層と考えられる褶曲・断層をほとんどうけていない中生代のコーラート層群とよばれる厚さ数千mと想像されている地層の下に果たして何がどのようにあるかは全く未知である。 したがってU社がもしこのコーラート層群をほりぬく試錐を行なうならば 地質学的にも今までは全く憶測の域をでなかつた分野に明るい光があてられることになる。

一方タイの南部アンダマン海やシャム湾の沿岸および

表10：重 晶 石

			1969年	1970年	1971年(1—4月)
生産：(1964年はじめて 106トンを生産 以後1969年まで市場関係で休山)					
北部（チェンマイ県：1964年12月開坑）	トン	—	—	3,990	
中部（ラブリ県：1970年4月開坑）	トン	—	—	900	
（ペブリ県：1970年6月開坑）	トン	—	—	11,600	
計	トン	—	—	16,490	16,800
	百万バート			7.9	8.7
輸出：輸出先：					
日本	トン	—	—	1,700	
シンガポール	トン	—	—	1,000	
計	トン	—	—	2,700	
	百万バート	—	—	1.3	

資料：タイ鉱産資源局 1971

表11：鉛 鉱

			1969年	1970年	1971年(1—4月)
生産：中部（カンチャナブリ県）					
	トン	4,230	4,230	3,024	
北部（プレー県）					
	トン	—	—	10	
計	トン	4,230	4,230	3,034	3,105
	百万バート	12.0	12.0	7.2	7.3
輸出：輸出先：					
西 独	トン	1,500	1,500	—	
オランダ	トン	3,008	3,008	2,882	
計	トン	4,508	4,508	2,882	
	百万バート	12.8	12.8	7.5	

資料：タイ鉱産資源局 1971

表12：珪 砂

		1969年	1970年	1971年(1-4月)
生産：南部(ソククラ県：1969年8月採掘開始)	トン	16,400	43,720	
計	トン 百万パーツ	16,400 2.0	43,720 4.2	11,270 1.4
国内消費：(ガラス製造用)	トン	16,400	43,720	

資料：タイ鉱産資源局 1971

表13：鉄 鉱

年 次	生 産						輸 出		国 内 消 費	
	計		南 部		中 部	北 部	トン	価 格 百万パーツ	トン	価 格 百万パーツ
	トン	価 格 百万パーツ	スラタニ県	ナコンシータ マラート県	ロブリ県	ナコンサワ ン県				
1951	6,477		トン	トン	トン	トン	(1970年の1トン南鮮 むけを除きすべて日本 むけ)		3,235	
1952	2,857							5,047		
1953	7,682							8,059		
1954	2,756							5,082		
1955	5,000							6,882		
1956	5,775							5,664		
1957	8,975	0.5						8,958		
1958	14,750	0.8						14,477		
1959	6,074	0.3						6,455		
1960	11,475	0.6	--	--	11,475	--		--	11,475	0.6
1961	55,793	7.1	39,014	--	16,779	--	19,437	3.1	16,779	0.9
1962	45,308	6.4	37,612	--	7,696	--	49,238	7.9	7,696	0.4
1963	15,741	1.2	2,559	--	12,134	1,048	7,280	1.2	12,134	0.7
1964	190,955	31.5	--	176,125	8,118	6,712	110,641	18.8	8,118	0.4
1965	750,474	126.5	--	737,396	9,069	4,009	723,405	123.0	9,069	0.5
1966	691,700	110.7	--	674,042	15,968	1,690	717,834	114.9	15,968	0.9
1967	549,180	87.9	--	536,179	12,706	295	530,545	84.9	10,335	0.6
1968	499,506	79.9	--	465,760	33,570	176	402,196	64.4	32,745	1.8
1969	477,393	76.4	--	450,750	21,805	4,838	492,645	78.8	24,581	1.3
1970	22,523	3.6	--	--	19,719	2,804	4,001	0.6	15,000	1.1
1971(1-4月)	11,628	1.9								

資料：1951—1959：Mining Development in Asia and the Far East, U.N.E.C.A.F.E.  
1960—1971：タイ鉱産資源局 1971

表14：コロンブ石—タンタル石 (本鉱は錫採取の折の副産物)

区 分	年 次		1967	1968	1969	1970	1971(1-4月)
	(トン)	(百万パーツ)					
生産：南部—ブケット県・トラン県・ バンガー県・タクアアア郡	(トン)	(百万パーツ)	40.2	44.9	26.4	56.5	19.8
			1.7	1.9	1.1	2.6	0.9
輸出：輸出先：日 本	(トン)		3.0	21.5	7.2	--	
米 国	( " )		--	--	4.5	18.0	
オランダ	( " )		--	5.4	--	--	
計	( " )	(百万パーツ)	3.0	26.9	11.7	18.0	
			0.1	1.1	0.5	0.8	

資料：タイ鉱産資源局 1971



その内陸には数百年来の長い歴史の錫鉱業がさかえほとんどもっぱら砂鉱床を稼行してきたが その尾鉱中の有用鉱物については ここ近年にいたるまで ほとんど顧みられるところがなかった。しかし最近になって 日本・米国・濠州その他の各社の注目するところとなり この方面の調査・開発が本格化しつつある。日本側としてもこれまでの実績に加えて さらに一層の努力が望ましく 単一鉱産物のみを目的とせず 総合的にすべての有用鉱物を合理的計画的に採取し 陸上のみならず海面下についても探査・採鉱し さらに現地において付加価値をできるだけ高くして タイの経済にも十分寄与するという方向にむかって すでに実施の段階にあるのは日・タイ両国にとって喜ばしいことと思われる。

タイの鉱産物については前記コラート台地の岩塩を除けば 世界において一二を争う未開発大鉱床は何れの鉱種についてもまだしられていない。しかしながら これまで鉱山局（鉱産資源局の前身）設置以来80年以上という日本の場合とほとんど同じ位の長さの歴史の間に地質図幅の出版されたものは未だ一葉もなく（昨年百万分の一全国地質図が公表されたが） 公刊された研究報告書また十数冊をいわず ほとんどすべての鉱山は 地表採掘の段階に止つていて 十分の地下探査は行なわれることきわめてまれなことを考えれば 将来いかなる鉱床が発見されるかも予期しがたい。この方面について日本側が基礎的な調査・研究から始まる総合的系統的な調査・開発の分野で本格的な協力を行なうことが 強くのぞまれるがこれについてはまた稿をあらためて申しのべたい。

（1971年9月13日稿12月20日一部補）（筆者は元所員 現バンコクECAPE事務局）

付記：五声をもつタイの地名は カナ・ローマ字いづれをもってしても現わしがたい。本稿中のカナ表記は Miss SUPATRA VUDHICHATVANICH による発音を できるだけ忠実に現わすよう試みたものである。

表15：カオリン (単位 トン)

	1969	1970	1971 (1—4月)
生産：北部—ラムパン県 —サラブリー県 —ウッタラディット県	1,800	3,008	
南部—ラノン県	130	180	
計	1,930	3,188	2,688
(百万パーツ)	1.1	1.8	1.5
採掘はいずれも1969年3月以降に始つた			
国内消費（窯業用）	760	931	
(百万パーツ)	0.4	0.5	

資料：タイ鉱産資源局 1971

表16：ジルコン (単位トン)

	1967	1968	1969	1970	1971 (1—4月)
生産：					
中部—ブラチャップ —キリカーン県 1967年10月採 掘開始	1,530	3,220	250	850	
南部—ブケット県 1969年3月採 掘開始	—	—	5	—	
〃—ラノン県 1970年8月採 掘開始	—	—	—	15	
計	1,530	3,220	255	865	504
(百万パーツ)	2.4	5.1	0.3	1.0	0.6
輸出：すべて日本むけ	650	810	1,340	2,510	
(百万パーツ)	1.0	1.3	1.9	3.0	

資料：タイ鉱産資源局 1971

表17：クローム鉄鉱

	トン	百万パーツ
生産：1971年4月	1,000	0.39
稼行鉱山一山：人員 28名		

資料：タイ鉱産資源局 1971

表18：葉蠟石 Pyrophyllite (単位 トン)

	1969	1970
生産：中部サラブリー県— Siam Cement Co., Ltd.	1,982	—
計	1,982	—
(百万パーツ)	0.3	—
採掘は1968年7月に始まり同年には 3,365トン 40万パーツを稼行した		

資料：タイ鉱産資源局 1971

表19：モナズ石 (本鉱は錫採取の折の副産物)

	トン	百万パーツ
生産：1971年1月	4.6	0.01
2〃	—	—
3〃	47.1	0.11
4〃	—	—
1—4月合計：	51.7	0.12

資料：タイ鉱産資源局 1971

表20：ゼノタイム (磷酸イットリウム鉱 YPO<sub>4</sub> Xenotime)  
(本鉱は錫採取の折副産物としてえられる)

	トン	百万パーツ
生産：1971年1月	—	—
2〃	—	—
3〃	1.4	0.032
4〃	—	—
	1.4	0.032

資料：タイ鉱産資源局 1971

表21:タイ国の鉱産資源埋蔵量(1969年計算)

鉱種	産地一県名	単位:1,000 t		
(アンチモン-鉛) (アンチモン鉛) Antimony ore	Surat Thani	スラタニ	50	稼
	Lampang	ラムパン	10	"
	Ratchaburi	ラブリ	5	"
	Prae	プレー	1	"
	計		66	
(石綿) Asbestos	Uttaradit	ウツラディット	5	"
計		5		
(重晶石) Barite (Barytes)	Lampang		1,000	未
	Loei	ルーイ	2,000	" Ba 45%
	Surat Thani		50	"
	計		3,050	
(クロム鉄鉱) Chromite	Uttaradit		2	稼 Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 30-46%
	Naratiwat	ナラティワット	2+	未 Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 42%
	計		4+	
(銅鉱) Copper ore	Nakhon Rachasima	ナコンラチャシマ	1.4	未
	Loei	(コラート)	67,000	探 Cu=0.7%
	計		67,001.4	
(珪藻石) Diatomite	Lampang		10,000+	未 SiO <sub>2</sub> 55-64% Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 24-26% Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> 5-10%
計			10,000+	
(ドロマイト) (白雲岩) Dolomite	Kanchanaburi	カンチャナブリ	200+	月産1,000-2,000トン
	Chonburi	チョンブリ	5.7	未 MgO 20.5% CaO 31.6% SiO <sub>2</sub> 1.1%
	計		205.7+	
(螢石) Fluorite (Fluorspar)	Lamphoon	ラムプーン	5,000+	稼 CaF <sub>2</sub> 75-85%
	Ratchaburi		500	" " "
	Petchaburi	ペブリ	1,000	" " "
	Kanchanaburi		1,500	" (1971年計算)
	計		8,000+	
(石墨) Graphite	Nakorn Sin Thamarat	ナコンシータマラート	1.28	
計			1.28	
(石膏) Gypsum	Phichit	ピチット	10,000+	稼 CaSO <sub>4</sub> 2H <sub>2</sub> O 96%
	Nakhon Sawan	ナコンサワン	10,000+	"
	Surat Thani		900	"
	Loei		600	未
	計		21,500+	
	(鉄鉱) Iron ore	Loei		27,000
Kanchanaburi			5,000	"
Nakhon Sawan			37	稼
Lopburi		ロブリ	7,000	" Fe 44%
Chachoengsao		チャチャンサオ	6,200	探 Fe 50-60%
Chonburi		チョンブリ	500	" Fe 60-68%
Chiang Mai		チェンマイ	1,000	未 Fe 69%
計			46,737	
(カオリン) Kaolin	Lampang		10,000+	稼
	Ranong	ラノン	5,000	"
	Chiang Mai		120	"
	計		15,120+	
(鉛鉱) Lead ore	Kanchanaburi		140	稼
計			140	
(褐炭) Lignite	Lamphoon		15,000	未
	Lampang		120,000	稼
	Krabi	クラビ	100,000	
	計		235,000	
(マンガン鉱) Manganese ore	Loei		10+	休
	Songkhla	ソングラ	500+	稼
	Lamphoon		200+	"
	Lampang		500+	未
	Chiang Rai	チェンライ	200+	"
計		1,410+		
(油母頁岩 油頁岩) Oil shale	Tak	タク	2,500,000	
	Lamphoon		15,000	
	計		2,515,000	未
(石油) Petroleum	Chiang Mai		1,000,000	稼
	計		1,000,000	
	Chiang Mai		1,000,000	
(岩塩) Rock salt	Chaiyaphum	チャイヤプーム	660,000	NaCl 98%+
	Udon Thani	ウドンタニ	3,000,000	
	計		3,660,000	未
(珪砂) Silica sand	Songkhla		21,000	稼
	Trang	トラン	20,000	
	Nakhon Si Thamarat	ナコンシータマラート	2,000	
	Pattanee	パタニー	2,500	未
	計		45,000	
	計		1,000	
(錫鉱) Tin ore	Tak		3,200	
(亜鉛鉱) Zinc ore	Tak		3,200	
計			3,200	未

④ 稼:稼行中 未:未稼行 探:探鉱中 休:休山中  
資料:タイ鉱産資源局 1970